

2022年度 学校法人 三幸学園 大阪こども専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 片淵 卓也

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 教員の指導力育成など資質向上のための取り組み

学園で制定するカリキュラムポリシーに則り、「生徒の涵養したい能力」のカテゴリに準じた教科間の連携を図る教科会を年 3 回実施。専門的知識を教員同士で交換し合うことはもちろん、互いの教科において連携できる点の発見と協働をさせることができた。

(2) 1年次の保育の魅力付け

目標・意欲喪失による退学率低減のため、1年生に対する教育イメージを統一させるべく1年間を4つに期分けした「スモールステップ」を制定し、全教職員会議での共有や職員室掲示、定期的発信文書への記載などを実施。教職員間の認識統一を図ることができた。また、生徒満足度向上のため、生徒の満足度に直結する要素のあぶりだしを行い、注力ポイントに絞ったアプローチができるよう情報整理を実施した。

(3) 職業定着率向上のための取り組み

昨年度本会において委員より頂戴した「若手(特に1年目)は上司に相談や面談ができる環境があっても、自らその環境へ行ける者は少なく、一人で抱えたまま悩んだり辞めてしまったりしている」という事実を受け、本事例とともに「定期的面談機会を創出することの大切さ」について広く周知することに努めた。また、業界関連施設と(保育園・幼稚園・こども園・施設など)本校とにおいて実習就職連絡会を開き、その中でも本情報を周知し現場の若手支援に関する手立てとして提示した。

(4) 対面による学校運営

2022年度はコロナウイルス感染症の対策を講じつつ、年間を通して対面で学校運営を行った。これまで学校生活をオンライン中心で過ごしてきた生徒であるため、対面での学校生活に順応できるよう、授業の運営方法等(環境面含む)の強化を行った。

(5) 授業アンケート、卒業生アンケートの評価向上

年に2回実施する授業アンケートと年に1回実施する卒業生アンケートにおいて、生徒の満足度を図ることができるため、より良い授業、教育サービスの提供ができるよう、アンケートを意識(特に対面での運営になるため)し、よい授業の実施事例を共有するなど強化を行った。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・社会経済のニーズを踏まえた将来構想について、全教職員には浸透できていない
- ・社会経済のニーズを踏まえた将来構想について、保護者・保証人に対し、周知はできたが、理解まで達していない。

② 今後の改善方策

- ・全教職員対象に学外の業界関係者による社会経済のニーズについて情報共有いただくとともに、学校が掲げる理念や目的、3つのポリシーを付随して伝えるようにする
- ・入学前の保護者・保証人説明会で周知していくと共に、アンケートにおいて理解度を図る。
また理解度が低い保護者・保証人については、個別のアプローチを行う。

③ 特記事項

入学前保護者説明会(オンデマンド)実施であるため一方通行 理解度が図れていないため、改善すべきだと感じている

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制はあるものの、更なる整備（理解浸透や認識の統一）が必要
- ・情報システム化は促進されてきており、活用率は上がっているが、非常勤講師を含め、学校全体で考えると、システムの理解度、活用方法にバラつきがあるため、より高い水準で活用できるよう改善していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・コンプライアンス体制について周知だけにとどまらず、教職員に対する継続的な情報の開示やフローの確認を実施する
- ・理解度、活用度合を確認し、まだ活用しきれていない人に対し、個別にレクチャーをしていく。

③ 特記事項

なし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・昨年の課題として挙がっていた全教職員における意見交換する場を設け、昨年度の課題は改善されたが、指導力向上に関する研修の回数や研修によっては、対象が限られてしまう点に課題感を感じる。

② 今後の改善方策

雇用形態によっては、とれる時間に限りが出てしまうので、システムを利用するなどして、研修内容を広く共有できる仕組みを作る。

③ 特記事項

なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・資格取得率の向上を図る試みはするが、成果が出きれていない
- ・目標喪失、人間関係のもつれに起因する退学が多数出ている
- ・卒業生の就職先へ訪問を行い実態把握は務められたが、学校の教育活動の改善までむすびつけられていない

② 今後の改善方策

- ・履修科目の単位修得により資格取得の可不可が決定するため、単位修得率の向上に努めること。
および、資格取得の意欲喪失のないよう、現場経験教員による業界魅力付け・動機づけを行う。
- ・特に1年生に対する支援において、入学時点から業界に求められるレベルで教育をするのではなく、まずは日常生活の過ごし方を整えていくレベルから教育を施し、よりスモールステップを踏みやすい環境をつくる。
- ・卒業生から得た情報を、在校生が受講する科目の中でリリースするフローを確立させる。

③ 特記事項

なし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・(4)の学修成果で挙げたように、退学率を低減していくためにも、学校生活環境の整備(なじめる、悩みや不安に気づく、支えるための仕組みなど)が課題である。

② 今後の改善方策

・様々な角度からの支援を行う。(逃げ場を創る)

③ 特記事項

なし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・海外研修が実施できていない。

② 今後の改善方策

・社会情勢を見つつ、実施できる内容を検討していく

③ 特記事項

なし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・安定的な入学者の確保。
- ・入学前後のギャップの解消。

② 今後の改善方策

- ・小学生や中学生などの層への広報活動の実施を行う。
- ・在校生の成長や学びが見えるような広報活動を組み入れていく。

③ 特記事項

なし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、社会・地域貢献の機会創出が難しかった。
- ・公開講座の周知が弱い。

② 今後の改善方策

- ・社会・地域貢献として、積極的にボランティアなどの地域活動の案内をしていく。
- ・地域だけでなく卒業生なども含め、広く発信していく。

④ 特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・通信制高校の学校に毎日通う意識がない生徒が、画一教育を受けること、また、起立性調節障害を持った生徒の多さに課題を感じている。専門学校で学ぶことについて伝えていくことも大切だと思っている。登校型の通信制高校は登校する仕掛けを作っているが、登校をさせずオンライン授業のみの通信制高校もある。送り出す側と受け入れ側の連携が必要だと感じている
- ・今年度の1年生は真面目な生徒が多い。一方で、通う習慣がなく出席できない学生も一定層いるが、対面出席必須であるため大きな課題でもある。入学前教育ができると良いと思う。
- ・皆勤でなくてよい全日制高校も出てきている。保育者として学校に来ることを前提とするのではなく、社会人訓練校として慣れていく時期が必要だと感じている。仕組化するには時間が必要だと感じるが、専門学校等も歩み寄る必要があると思っている。
- ・直面されている課題は大切なことであり、御校はSDGs教育のように「取りこぼさない教育」をされていると感じる。園にいる支援が必要な子を将来的に受け入れてくれる先もあるということを知ることができて良かった。